

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5138198号
(P5138198)

(45) 発行日 平成25年2月6日(2013.2.6)

(24) 登録日 平成24年11月22日(2012.11.22)

(51) Int.Cl. F 1
B 6 O N 3 / 1 0 (2 0 0 6 . 0 1) B 6 O N 3 / 1 0 A

請求項の数 2 (全 13 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2006-280821 (P2006-280821)</p> <p>(22) 出願日 平成18年10月16日 (2006.10.16)</p> <p>(65) 公開番号 特開2008-94330 (P2008-94330A)</p> <p>(43) 公開日 平成20年4月24日 (2008.4.24)</p> <p>審査請求日 平成21年9月15日 (2009.9.15)</p> <p>前置審査</p>	<p>(73) 特許権者 000004765 カルソニックカンセイ株式会社 埼玉県さいたま市北区日進町二丁目191 7番地</p> <p>(74) 代理人 100082670 弁理士 西脇 民雄</p> <p>(72) 発明者 松澤 宏 東京都中野区南台5丁目24番15号 カ ルソニックカンセイ株式会社内</p> <p>審査官 青木 良憲</p>
--	--

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 カップホルダ装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

アウトケースと、該アウトケースに対して引出収納自在に取付けられたカップホルダ部とを備え、

該カップホルダ部が、飲料容器を上方から挿入可能な飲料容器挿入用開口部を有するカップホルダ本体と、該カップホルダ本体の下方に配設されて飲料容器挿入用開口部に挿入された飲料容器の底部を保持可能な底部保持部材とを備えると共に、

該底部保持部材が、カップホルダ本体に対し、軸支部を介して上下傾動自在に軸支されることにより、カップホルダ本体の下面側に格納される格納位置と、カップホルダ本体から下方へ突出して飲料容器の底部を保持可能な底部保持位置との間を往復移動自在に取付けられ、

更に、カップホルダ部の引出収納動作に連動させて、底部保持部材を上下傾動可能な連動機構を備えたカップホルダ装置において、

前記アウトケースとカップホルダ部との間に、カップホルダ部の引出収納動作を案内可能な出入用ガイド機構部を備え、

該出入用ガイド機構部が、前記アウトケースの両内側面から突設されて、一定の厚みでカップホルダ本体の引出収納方向のみに向けて延在されるガイド用凸条部と、カップホルダ本体の両側面に形成されて、前記ガイド用凸条部が摺動自在に嵌合されるガイド用凹溝部とを備え、

前記連動機構が、カップホルダ本体の側面に形成されて、前記ガイド用凹溝部の位置か

ら下方へ向け、前記軸支部を中心とする円弧状に延びる貫通孔と、底部保持部材の側面から突設されて、前記円弧状の貫通孔に沿い移動可能なガイド軸と、前記ガイド用凸条部の手前側端部に形成されて、前記円弧状の貫通孔から突出された前記ガイド軸の先端部を案内してガイド用凸条部の下縁部側へと回り込ませるガイド面とを備えることにより、前記出入用ガイド機構部に対して一体に形成され、

前記円弧状の貫通孔は、前記ガイド用凹溝部を部分的に分断して、カップホルダ本体側面のガイド用凹溝部の内側と下側との間に連設されると共に、

前記ガイド用凸条部の手前側端部に形成された前記ガイド面は、奥下がりの傾斜面とされ、

前記ガイド用凸条部は、少なくともアウタケースに対してカップホルダ部を最大限に引出した時に、ガイド軸がその手前側端部から外れる長さに形成されることにより、手前側端部から外れたガイド軸が、円弧状の貫通孔の上端部へと移動してガイド用凹溝部内へ入り、ガイド用凹溝部内に位置することで、底部保持部材が下方へ突出され、

カップホルダが引出された状態からカップホルダを押込むと、ガイド用凹溝部内に位置するガイド軸が、手前側端部のガイド面に当接することにより、ガイド面に倣って円弧状の貫通孔の下端側へと移動してガイド用凹溝部内からガイド用凹溝部の下側へ出され、ガイド用凸条部の下縁部側へ回り込んでガイド用凸条部の下縁部に案内されることにより、底部保持部材が格納されるよう構成されたことを特徴とするカップホルダ装置。

【請求項 2】

前記連動機構が、カップホルダ本体と、底部保持部材と、アウタケースとの間の一側面部分に対してのみ設けられたことを特徴とする請求項 1 記載のカップホルダ装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、カップホルダ装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

自動車などの車両には、通常、車室内にカップホルダ装置が設けられている。このようなカップホルダ装置のなかには、引出式のものが存在している。

【0003】

このような引出式のカップホルダ装置は、アウタケースと、このアウタケースに対して引出収納自在に取付けられたカップホルダ部とを備えている。

【0004】

このカップホルダ部は、飲料容器を上方から挿入可能な飲料容器挿入用開口部を有するカップホルダ本体と、このカップホルダ本体の下方に配設されて飲料容器挿入用開口部に挿入された飲料容器の底部を保持可能な底部保持部材とを備えている。

【0005】

そして、底部保持部材は、カップホルダ本体に対し、軸支部を介して上下傾動自在に軸支されることにより、カップホルダ本体の下面側に格納される格納位置と、カップホルダ本体から下方へ突出して飲料容器の底部を保持可能な底部保持位置との間を往復移動自在に取付けられている。

【0006】

上記引出式のカップホルダ装置では、アウタケースに対してカップホルダ部を引出すと、底部保持部材が自重で軸支部を中心に下方へ傾動されることにより、底部保持部材はカップホルダ本体に対して下方へ突出した底部保持位置となる。

【0007】

反対に、アウタケースに対してカップホルダ部を収納する際には、底部保持部材を軸支部を中心に格納位置まで上方へ傾動して、カップホルダ本体の下面側に格納させるようにする。これにより、カップホルダ本体と底部保持部材とをアウタケース内へ収納させることが可能となる。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 8 】

このような引出式のカップホルダ装置では、アウトケースに対してカップホルダ部を収納する際に、底部保持部材がアウトケースの下縁部や意匠面を構成するフィニッシャー部材などの内装パネル部材に当たって傷を付けるおそれがある。

【 0 0 0 9 】

そこで、カップホルダ部の引出収納動作に連動させて、底部保持部材を上下傾動可能な連動機構を備えたものが開発されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【 0 0 1 0 】

この連動機構は、カップホルダ本体の両側面に形成されて、軸支部を中心とする円弧状の貫通孔と、底部保持部材の両側面から突設されて、円弧状の貫通孔に沿い移動可能なガイド軸と、アウトケースの両内側面に凹設形成されて、円弧状の貫通孔から突出されたガイド軸の先端部を案内する倣い溝とを備えている。この倣い溝は、奥側に格納位置保持用溝部を有し、手前側に底部保持位置保持用溝部を有すると共に、手前側の近傍に部分的に大きく湾曲する移行用溝部を有している。

【特許文献 1】特開 2 0 0 3 - 2 6 0 9 7 0

【 発明の開示 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 1 1 】

しかしながら、上記特許文献 1 に記載されたカップホルダ装置では、アウトケースの両内側面に対し、底部保持部材を連動させるための倣い溝を凹設形成して、これにガイド軸の先端部を案内させるようにしているが、この倣い溝は、形状が複雑であるため、設計・調整や成形に手間がかかると共に、貫通孔に対してガイド軸を倣い溝の深さ分だけ大きく突出させなければならないため、カップホルダ本体に対する底部保持部材の組付作業を困難にする要因となっていた。特に、倣い溝とガイド軸とを両側面部分に設けたことが、組付作業をより一層困難なものとしていた。

【 0 0 1 2 】

更に、倣い溝は、形状が複雑であるため、アウトケースに対するカップホルダ部の引出収納動作を案内する出入用ガイド部としては使用することができなかった。

【 0 0 1 3 】

また、カップホルダ本体や、底部保持部材や、アウトケースの両側面に対して連動機構を設けるようにしていたので、貫通孔やガイド軸が両側から目視されるおそれがあり、見栄上も不利であった。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 4 】

上記課題を解決するために、請求項 1 に記載された発明では、アウトケースと、該アウトケースに対して引出収納自在に取付けられたカップホルダ部とを備え、

該カップホルダ部が、飲料容器を上方から挿入可能な飲料容器挿入用開口部を有するカップホルダ本体と、該カップホルダ本体の下方に配設されて飲料容器挿入用開口部に挿入された飲料容器の底部を保持可能な底部保持部材とを備えると共に、

該底部保持部材が、カップホルダ本体に対し、軸支部を介して上下傾動自在に軸支されることにより、カップホルダ本体の下面側に格納される格納位置と、カップホルダ本体から下方へ突出して飲料容器の底部を保持可能な底部保持位置との間を往復移動自在に取付けられ、

更に、カップホルダ部の引出収納動作に連動させて、底部保持部材を上下傾動可能な連動機構を備えたカップホルダ装置において、

前記アウトケースとカップホルダ部との間に、カップホルダ部の引出収納動作を案内可能な出入用ガイド機構部を備え、

該出入用ガイド機構部が、前記アウトケースの両内側面から突設されて、一定の厚みでカップホルダ本体の引出収納方向のみに向けて延在されるガイド用凸条部と、カップホル

10

20

30

40

50

ダ本体の両側面に形成されて、前記ガイド用凸条部が摺動自在に嵌合されるガイド用凹溝部とを備え、

前記連動機構が、カップホルダ本体の側面に形成されて、前記ガイド用凹溝部の位置から下方へ向け、前記軸支部を中心とする円弧状に延びる貫通孔と、底部保持部材の側面から突設されて、前記円弧状の貫通孔に沿い移動可能なガイド軸と、前記ガイド用凸条部の手前側端部に形成されて、前記円弧状の貫通孔から突出された前記ガイド軸の先端部を案内してガイド用凸条部の下縁部側へと回り込ませるガイド面とを備えることにより、前記出入用ガイド機構部に対して一体に形成され、

前記円弧状の貫通孔は、前記ガイド用凹溝部を部分的に分断して、カップホルダ本体側面のガイド用凹溝部の内側と下側との間に連設されると共に、

前記ガイド用凸条部の手前側端部に形成された前記ガイド面は、奥下がりの傾斜面とされ、

前記ガイド用凸条部は、少なくともアウタケースに対してカップホルダ部を最大限に引出した時に、ガイド軸がその手前側端部から外れる長さに形成されることにより、手前側端部から外れたガイド軸が、円弧状の貫通孔の上端部へと移動してガイド用凹溝部内へ入り、ガイド用凹溝部内に位置することで、底部保持部材が下方へ突出され、

カップホルダが引出された状態からカップホルダを押込むと、ガイド用凹溝部内に位置するガイド軸が、手前側端部のガイド面に当接することにより、ガイド面に倣って円弧状の貫通孔の下端側へと移動してガイド用凹溝部内からガイド用凹溝部の下側へ出され、ガイド用凸条部の下縁部側へ回り込んでガイド用凸条部の下縁部に案内されることで、底部保持部材が格納されるよう構成されたことを特徴としている。

【 0 0 1 5 】

請求項 2 に記載された発明では、前記連動機構が、カップホルダ本体と、底部保持部材と、アウタケースとの間の一側面部分に対してのみ設けられたことを特徴としている。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 6 】

請求項 1 の発明によれば、アウタケースとカップホルダ部との間に、カップホルダ部の引出収納動作を案内可能な出入用ガイド機構部を備え、該出入用ガイド機構部が、前記アウタケースの両内側面から突設されて、一定の厚みでカップホルダ本体の引出収納方向のみに向けて延在されるガイド用凸条部と、カップホルダ本体の両側面に形成されて、前記ガイド用凸条部が摺動自在に嵌合されるガイド用凹溝部とを備え、前記連動機構が、カップホルダ本体の側面に形成されて、前記ガイド用凹溝部の位置から下方へ向け、前記軸支部を中心とする円弧状に延びる貫通孔と、底部保持部材の側面から突設されて、前記円弧状の貫通孔に沿い移動可能なガイド軸と、前記ガイド用凸条部の手前側端部に形成されて、前記円弧状の貫通孔から突出された前記ガイド軸の先端部を案内してガイド用凸条部の下縁部側へと回り込ませるガイド面とを備えることにより、前記出入用ガイド機構部に対して一体に形成され、前記円弧状の貫通孔は、前記ガイド用凹溝部を部分的に分断して、カップホルダ本体側面のガイド用凹溝部の内側と下側との間に連設されると共に、前記ガイド用凸条部の手前側端部に形成された前記ガイド面は、奥下がりの傾斜面とされたことにより、以下のような作用・効果を得ることができる。

【 0 0 1 7 】

即ち、出入用ガイド機構部としてアウタケースの内側面から突設させたガイド用凸条部の手前側端部をガイド面として利用し、底部保持部材の側面から突設したガイド軸をガイド用凸条部の下縁部側へと回り込ませるようにしたことにより、形状の複雑な倣い溝を特別に設ける必要を無くすことができるので、倣い溝の設計・調整や成形の手間を低減することができる。また、ガイド用凸条部の先端部を倣いの相手側とすることにより、貫通孔に対するガイド軸の突出量を減少させることができるため、カップホルダ本体に対する底部保持部材の組付作業を容易化することができる。

【 0 0 1 8 】

また、前記ガイド用凸条部は、少なくともアウタケースに対してカップホルダ部を最大

限に引出した時に、ガイド軸がその手前側端部から外れる長さに形成されることにより、手前側端部から外れたガイド軸が、円弧状の貫通孔の上端部へと移動してガイド用凹溝部内へ入り、ガイド用凹溝部内に位置することで、底部保持部材が下方へ突出されることになる。

カップホルダが引出された状態からカップホルダを押込むと、ガイド用凹溝部内に位置するガイド軸が、手前側端部のガイド面に当接することにより、ガイド面に倣って円弧状の貫通孔の下端側へと移動してガイド用凹溝部内からガイド用凹溝部の下側へ出され、ガイド用凸条部の下縁部側へ回り込んでガイド用凸条部の下縁部に案内されることで、底部保持部材が格納されることになる。

請求項 2 の発明によれば、前記連動機構が、カップホルダ本体と、底部保持部材と、アウトケースとの間の一側面部分（片側）に対してのみ設けられたことにより、貫通孔やガイド軸が両側から目視されることがなくなり、見栄上有利となる。また、連動機構を片側とすることにより、カップホルダ本体に対する底部保持部材の組付作業を更に容易化することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0019】

以下、本発明を具体化した実施例について、図示例と共に説明する。

【実施例】

【0020】

図 1 ~ 図 11 は、この発明の実施例を示すものである。

【0021】

まず、構成について説明する。自動車などの車両の車室内に、図 1 ~ 図 3 に示すような、引出式のカップホルダ装置 1 を設ける。このカップホルダ装置 1 は、例えば、インストルメントパネルやフィニッシャー部材などのような、意匠面を構成する内装パネル部材 2 などに対して取付けられる。

【0022】

この引出式のカップホルダ装置 1 は、主に図 3 に示すように、アウトケース 3 と、このアウトケース 3 に対して引出収納自在に取付けられたカップホルダ部 4 とを備えている。

【0023】

アウトケース 3 は、少なくとも、手前側の面に、カップホルダ部 4 を収容可能なカップホルダ部用開口部 5 を有すると共に、カップホルダ部 4 を所要の間隙を有して包囲可能な上下左右の面（上壁部 6、下壁部 7、側壁部 8）を有する枠状を呈している。このアウトケース 3 は、上記内装パネル部材 2 に形成された取付用開口部 9 の裏面側に、カップホルダ部用開口部 5 の周囲に形成された取付用フランジ部 10 を位置合せした状態で取付けられる。また、アウトケース 3 には、内装パネル部材 2 の裏面側に取付けるための取付用ブラケット部 11 などが適宜形成されている。

【0024】

カップホルダ部 4 は、飲料容器 12 を上方から挿入可能な飲料容器挿入用開口部 13 を有するカップホルダ本体 14 と、このカップホルダ本体 14 の下方に配設されて飲料容器挿入用開口部 13 に挿入された飲料容器 12 の底部を保持可能な底部保持部材 15 とを備えている。

【0025】

ここで、カップホルダ本体 14 は、飲料容器挿入用開口部 13 を形成できるようにするために、飲料容器 12 の径寸法よりも所要量だけ大きな幅寸法と、引出状態の時の支持代を確保するために、飲料容器 12 の径寸法のほぼ 2 倍程度の奥行寸法とを有する、平面視ほぼ矩形板状のホルダ平面部 16 を呈している。このホルダ平面部 16 に対し、飲料容器挿入用開口部 13 は、手前側のほぼ幅中央部分に形成される。このホルダ平面部 16 の奥側部分には、最大引出位置を規制するストッパ 17 が突設されている。このストッパ 17 は、アウトケース 3 の上壁部 6 などに形成された図示しない受け部などに係止され得るようになっている。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 6 】

このカップホルダ本体 1 4 は、ホルダ平面部 1 6 の両側縁部に、ほぼ全域に亘ってほぼ均一の幅で連続的にほぼ垂直下方へ延びる、ほぼ帯状をしたホルダ側面部 1 8 を有している。このホルダ側面部 1 8 により、カップホルダ本体 1 4 は、ほぼ下向きコ字状の横断面形状となり、このほぼ下向きコ字状の内部空間が、底部保持部材 1 5 を格納可能な底部保持部材格納空間となる。なお、このホルダ側面部 1 8 の幅寸法（カップホルダ本体 1 4 全体としての見掛上の厚み）は、ほぼ 1 c m から数 c m 程度のものである。

【 0 0 2 7 】

また、カップホルダ本体 1 4 は、手前側の端部に、内装パネル部材 2 の取付用開口部 9 とほぼ対応して、収納状態で内装パネル部材 2 とほぼ面一に連なる、フランジ状の意匠面部 1 9 を有している。

10

【 0 0 2 8 】

このようなカップホルダ本体 1 4 には、直線タイプのものも存在するが、この場合には、側面視で若干上に凸状に湾曲された曲線タイプのもものとされている。このカップホルダ本体 1 4 は、手前側が高く、奥側が低くなるような、前下がりの傾斜状態で配置されている。

【 0 0 2 9 】

一方、底部保持部材 1 5 は、平面視ほぼ奥向きコ字形状の本体部 2 0 を有している。この本体部 2 0 は、カップホルダ本体 1 4 の両ホルダ側面部 1 8 の内面に沿って延びる両側腕部 2 1 と、この両側腕部 2 1 の手前側の端部間を連結すると共に飲料容器 1 2 の底部を直接保持する底部保持部 2 2 とを有している。この本体部 2 0 は、カップホルダ本体 1 4 下面側の底部保持部材格納空間に対して格納可能な厚さに構成される。更に、必要に応じ、両側腕部 2 1 の奥側の部分の下縁部間に対し、両者間を所要の幅で連結して補強可能な連結補強部 2 3 を設けても良い。

20

【 0 0 3 0 】

そして、底部保持部材 1 5 は、カップホルダ本体 1 4 に対し、軸支部 2 5 を介して上下傾動自在に軸支されることにより、カップホルダ本体 1 4 の下面側に格納される格納位置と、カップホルダ本体 1 4 から下方へ突出して飲料容器 1 2 の底部を保持可能な底部保持位置との間を往復移動自在に取付けられている。

【 0 0 3 1 】

この軸支部 2 5 は、底部保持部材 1 5 の両側腕部 2 1 の奥側端部近傍からカップホルダ本体 1 4 の幅方向へ向けて突設された軸部 2 6 と、カップホルダ本体 1 4 の両ホルダ側面部 1 8 の対応する位置に形成されて、軸部 2 6 を軸支可能な軸孔 2 7 とを備えている。この軸部 2 6 は、カップホルダ本体 1 4 の両ホルダ側面部 1 8 に対し、先端がほとんど突出されない程度の長さ形成される。また、軸孔 2 7 は、後述するガイド用凹溝部 3 3 の下側の位置に形成される。

30

【 0 0 3 2 】

更に、カップホルダ部 4 の引出収納動作に連動させて、底部保持部材 1 5 を上下傾動可能な連動機構 3 0 を備えるようにする。

【 0 0 3 3 】

そのために、この実施例のものでは、先ず、アウトケース 3 とカップホルダ部 4 との間に、カップホルダ部 4 の引出収納動作を案内可能な出入用ガイド機構部 3 1 を備えるようにする。

40

【 0 0 3 4 】

そして、この出入用ガイド機構部 3 1 を、アウトケース 3 の両内側面（側壁部 8 の内面）から突設されて、カップホルダ本体 1 4 の引出収納方向へ連続的に延びるガイド用凸条部 3 2 と、カップホルダ本体 1 4 の両側面（ホルダ側面部 1 8 ）に形成されて、ガイド用凸条部 3 2 が摺動自在に嵌合されるガイド用凹溝部 3 3 とを備えたものとする。ガイド用凹溝部 3 3 は、カップホルダ本体 1 4 の両ホルダ側面部 1 8 に凹設形成しても良いが、ホルダ側面部 1 8 の肉厚が不作して凹設形成できない場合には、ガイド用凸条部 3 2 の上下

50

部に沿って一対の突条を設けて、その間の部分をガイド用凹溝部 33 としても良い。このガイド用凹溝部 33 も、ガイド用凸条部 32 と同様に、カップホルダ本体 14 の引出収納方向へほぼ連続的に延びるものとする。この場合、カップホルダ本体 14 が曲線タイプとされているので、引出収納方向もこれに合わせて曲線的なものとなる。

【0035】

そして、連動機構 30 が、カップホルダ本体 14 の側面（ホルダ側面部 18）に形成されて、ガイド用凹溝部 33 の位置（ガイド用凸条部 32 と対応する位置）から下方へ向け、軸支部 25 を中心とする円弧状に延びる貫通孔 35 と、底部保持部材 15 の側面（側腕部 21）から突設されて、円弧状の貫通孔 35 に沿い移動可能なガイド軸 36 と、ガイド用凸条部 32 の手前側端部に形成されて、円弧状の貫通孔 35 から突出されたガイド軸 36 の先端部を案内してガイド用凸条部 32 の下縁部側へと回り込ませるガイド面 37 とを備えるように構成する。

10

【0036】

ここで、円弧状の貫通孔 35 とガイド軸 36 とは、軸支部 25 よりも奥側の位置に形成されている。円弧状の貫通孔 35 は、少なくともガイド軸 36 の直径とガイド用凸条部 32 の上下方向の寸法とを加えた長さ以上の長さを有している。ガイド用凹溝部 33 は、円弧状の貫通孔 35 によって部分的に分断される。ガイド用凸条部 32 の長さは、アウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 を最大限に引出した時に、手前側端部からガイド軸 36 が外れる長さで、且つ、底部保持部材 15 がアウトケース 3 の下縁部や意匠面を構成するフィニッシャー部材などの内装パネル部材 2 に当たる直前にガイド軸 36 が手前側端部に当るような長さとする。そして、このガイド用凸条部 32 の手前側端部に形成されるガイド面 37 は、奥下がりの傾斜面とされる。

20

【0037】

この際、特に、連動機構 30 は、カップホルダ本体 14 と、底部保持部材 15 と、アウトケース 3 との間の一側面部分に対してのみ設けられるようにする。

【0038】

次に、この実施例の作用について説明する。

【0039】

上記引出式のカップホルダ装置 1 は、図 1 の収納された状態から、アウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 を引出すと、図 2 に示すように、底部保持部材 15 が自重で軸支部 25 を中心に下方へ傾動されるので、底部保持部材 15 はカップホルダ本体 14 に対して下方へ突出した底部保持位置となる。

30

【0040】

この状態で、カップホルダ本体 14 の飲料容器挿入用開口部 13 へ上方から飲料容器 12 を挿入すると、底部保持部材 15 が飲料容器 12 の底部を保持することにより、飲料容器 12 を置くことが可能となる。

【0041】

反対に、飲料容器 12 を置かない場合には、図 2 の引出された状態から、アウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 を押込むことにより、図 1 に示すように、カップホルダ装置 1 が、意匠面を構成する内装パネル部材 2 の内側に収納された状態となる。

40

【0042】

この収納の際には、底部保持部材 15 を、軸支部 25 を中心に格納位置まで上方へ傾動して、カップホルダ本体 14 の下面側に格納させるようにする。これにより、カップホルダ本体 14 と底部保持部材 15 とをアウトケース 3 内へ支障なく格納させることが可能となる。

【0043】

このような引出式のカップホルダ装置 1 では、アウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 を収納する際に、底部保持部材 15 がアウトケース 3 の下縁部や意匠面を構成するフィニッシャー部材などの内装パネル部材 2 に当たって傷を付けるおそれがあるので、この実施例のカップホルダ装置 1 では、カップホルダ部 4 の引出収納動作に連動させて、底部保

50

持部材 15 を上下傾動させ連動機構 30 を備えることにより、傷付きを防止することができるようにしている。この連動機構 30 による連動は、カップホルダ部 4 の引出時に底部保持部材 15 を下方へ傾動させ、収納時に底部保持部材 15 を上方へ傾動させるものである。

【 0 0 4 4 】

即ち、先ず、カップホルダ部 4 は、アウトケース 3 とカップホルダ部 4 との間に設けられた出入用ガイド機構部 31 によって、引出収納動作が案内されることになる。

【 0 0 4 5 】

より具体的には、出入用ガイド機構部 31 は、アウトケース 3 の両内側面から突設されたガイド用凸条部 32 と、カップホルダ本体 14 の両側面に形成されたガイド用凹溝部 33 との摺動によって、カップホルダ部 4 の引出収納動作を案内する。このガイド用凸条部 32 とガイド用凹溝部 33 とは、共に、カップホルダ本体 14 の引出収納方向へ向けて延設されているのみなので、形状が単純であり、設計や成形などが容易である。

【 0 0 4 6 】

そして、アウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 が収納されている状態では、ガイド軸 36 は、ガイド用凸条部 32 の下縁部側へ位置すると共に、円弧状の貫通孔 35 の下端部側に位置している。この時、底部保持部材 15 は、上方へ傾動した格納位置となっている。

【 0 0 4 7 】

アウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 を最大限に引出すと、図 4 に示すように、ガイド軸 36 は、ガイド用凸条部 32 の手前側端部から外れるため、自重によって円弧状の貫通孔 35 の上端部側へと移動する。これにより、底部保持部材 15 は、軸部 26 を中心に下方へ傾動して底部保持位置となる。

【 0 0 4 8 】

この引出状態から、アウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 を押込むと、図 5 ~ 図 8 に順に示すように、底部保持部材 15 がアウトケース 3 の下縁部や意匠面を構成するフィニッシャー部材などの内装パネル部材 2 に当たる直前にガイド軸 36 が手前側端部に当り（図 5）、その後、ガイド軸 36 は、ガイド用凸条部 32 の手前側端部のガイド面 37 に倣って円弧状の貫通孔 35 の下端部側へと移動する（図 6）。これにより、底部保持部材 15 は、軸部 26 を中心に上傾動する。なお、連動機構 30 は、底部保持部材 15 を完全に格納位置へ移動させるものとしても良いが、この場合には、底部保持部材 15 を格納位置の直前まで移動させる程度としている。そこで、更にアウトケース 3 に対してカップホルダ部 4 を押込むことにより、図 7 ~ 図 8 および図 9 ~ 図 11 に示すように、底部保持部材 15 は徐々に格納位置とされる。この際、底部保持部材 15 は、アウトケース 3 の下縁部や意匠面を構成するフィニッシャー部材などの内装パネル部材 2 によって、格納位置へと導かれるが、当りが緩くなる位置まで既に移動しているので、特に傷付けたりすることもない。

【 0 0 4 9 】

このように、この実施例によれば、アウトケース 3 とカップホルダ部 4 との間に、カップホルダ部 4 の引出収納動作を案内可能な出入用ガイド機構部 31 を備え、出入用ガイド機構部 31 が、アウトケース 3 の両内側面から突設されて、カップホルダ本体 14 の引出収納方向へ延びるガイド用凸条部 32 と、カップホルダ本体 14 の両側面に形成されて、ガイド用凸条部 32 が摺動自在に嵌合されるガイド用凹溝部 33 とを備え、連動機構 30 が、カップホルダ本体 14 の側面に形成されて、ガイド用凹溝部 33 の位置（ガイド用凸条部 32 と対応する位置）から下方へ向け、軸支部 25 を中心とする円弧状に延びる貫通孔 35 と、底部保持部材 15 の側面から突設されて、円弧状の貫通孔 35 に沿い移動可能なガイド軸 36 と、ガイド用凸条部 32 の手前側端部に形成されて、円弧状の貫通孔 35 から突出されたガイド軸 36 の先端部を案内してガイド用凸条部 32 の下縁部側へと回り込ませるガイド面 37 とを備えたことにより、以下のような作用・効果を得ることができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 0 】

即ち、出入用ガイド機構部 3 1 としてアウトケース 3 の内側面から突設させたガイド用凸条部 3 2 の手前側端部をガイド面 3 7 として利用し、底部保持部材 1 5 の側面から突設したガイド軸 3 6 をガイド用凸条部 3 2 の下縁部側へと回り込ませるようにしたことにより、形状の複雑な倣い溝を特別に設ける必要を無くすることができるので、倣い溝の設計・調整や成形の手間を低減することができる。また、ガイド用凸条部 3 2 の先端部を倣いの相手側とすることにより、貫通孔 3 5 に対するガイド軸 3 6 の突出量を減少させることができるため、カップホルダ本体 1 4 に対する底部保持部材 1 5 の組付作業を容易化することができる。

【 0 0 5 1 】

また、連動機構 3 0 が、カップホルダ本体 1 4 と、底部保持部材 1 5 と、アウトケース 3 との間の一側面部分（片側）に対してのみ設けられたことにより、貫通孔 3 5 やガイド軸 3 6 が両側から目視されることがなくなり、見栄上有利となる。また、連動機構 3 0 を片側とすることにより、カップホルダ本体 1 4 に対する底部保持部材 1 5 の組付作業を更に容易化することができる。

【 0 0 5 2 】

以上、この発明の実施例を図面により詳述してきたが、実施例はこの発明の例示にしか過ぎないものであるため、この発明は実施例の構成にのみ限定されるものではなく、この発明の要旨を逸脱しない範囲の設計の変更等があってもこの発明に含まれることは勿論である。例えば、各実施例に複数の構成が含まれている場合には、これらの構成の可能な組合せが含まれることは勿論である。また、複数の実施例や変形例が示されている場合には、これらに跨がった構成の組合せのうちの可能なものが含まれることは勿論である。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 5 3 】

【 図 1 】 本発明の実施例にかかるカップホルダ装置の内装パネル部材に対する凸状態を示す斜視図である。

【 図 2 】 図 1 の引出状態を示す図である。

【 図 3 】 図 1 のカップホルダ装置の分解斜視図である。

【 図 4 】 図 3 のカップホルダ装置の引出状態の側面図である。

【 図 5 】 図 4 に続く作動図である。

【 図 6 】 図 5 に続く作動図である。

【 図 7 】 図 6 に続く作動図である。

【 図 8 】 図 7 に続く作動図である。

【 図 9 】 (a) は、図 6 と同じ状態の側面図、(b) は (a) の A - A 断面図、(c) は (a) の a - a 断面図である。

【 図 1 0 】 (a) は、図 7 と図 8 との中間状態の側面図、(b) は (a) の B - B 断面図、(c) は (a) の b - b 断面図である。

【 図 1 1 】 (a) は、図 9 と図 8 との中間状態の側面図、(b) は (a) の C - C 断面図、(c) は (a) の c - c 断面図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 5 4 】

- 3 アウトケース
- 4 カップホルダ部
- 1 2 飲料容器
- 1 3 飲料容器挿入用開口部
- 1 4 カップホルダ本体
- 1 5 底部保持部材
- 2 5 軸支部
- 3 0 連動機構
- 3 1 出入用ガイド機構部

10

20

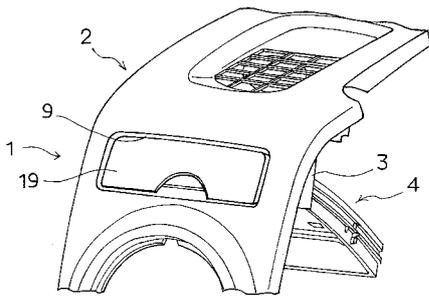
30

40

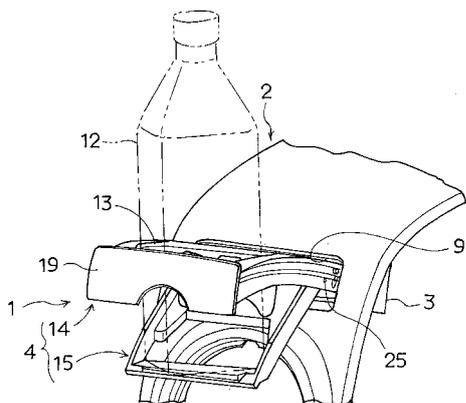
50

- 3 2 ガイド用凸条部
- 3 3 ガイド用凹溝部
- 3 5 貫通孔
- 3 6 ガイド軸
- 3 7 ガイド面

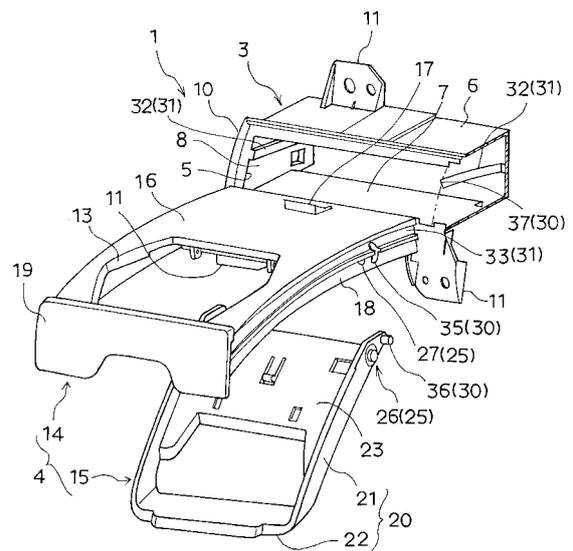
【図1】



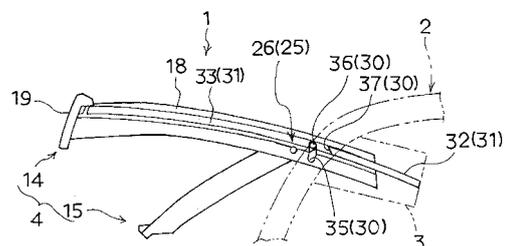
【図2】



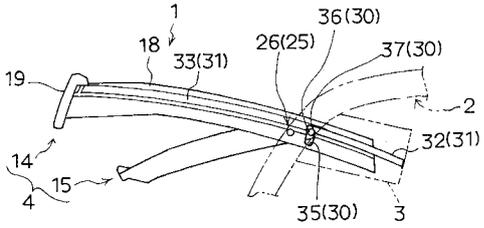
【図3】



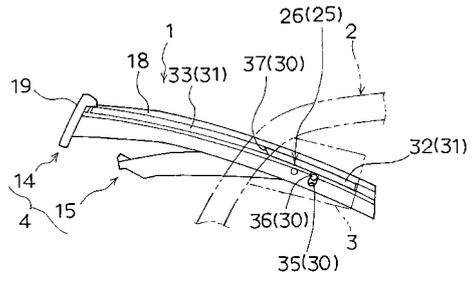
【図4】



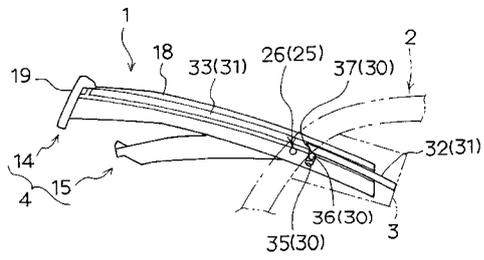
【図 5】



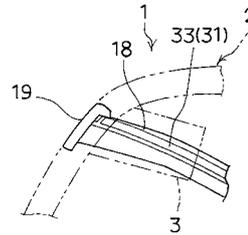
【図 7】



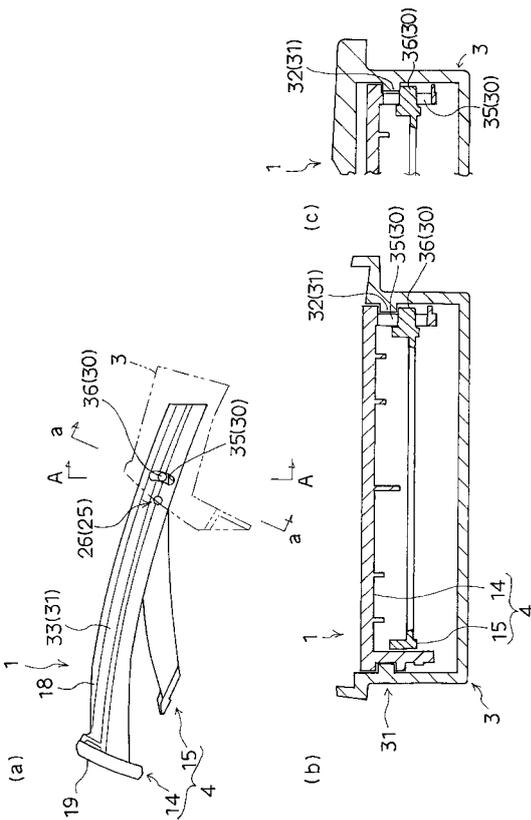
【図 6】



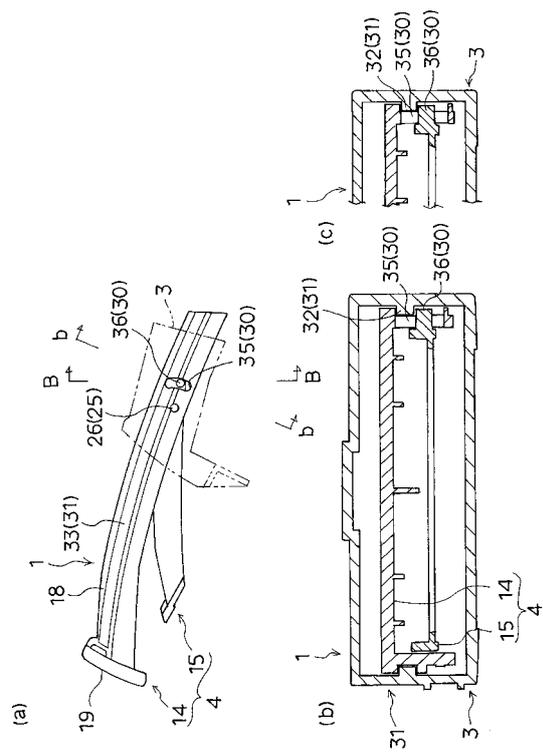
【図 8】



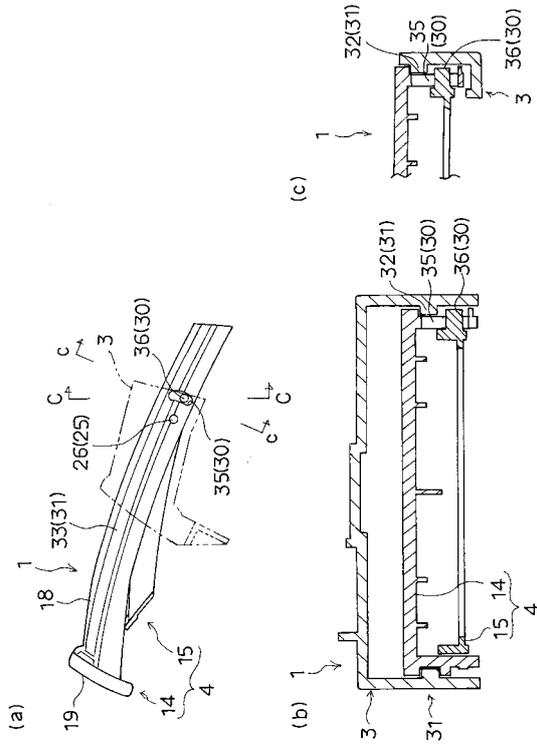
【図 9】



【図 10】



【 図 1 1 】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2003-260970(JP,A)
特開2002-254972(JP,A)
特開2002-187474(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B60N 3/10